

成果と課題

1 成果

本研究の目的の1つでもある「中1ギャップの解消」について、交流部会での児童生徒の相互交流や生徒指導部会での「小中情報交換会」によるきめ細やかな指導及び「あいさつ運動」等の取り組みは大きな効果があったと感じている。

また、乗り入れ授業や6年生による「神中登校日」は中学校生活や中学校の教師に対するイメージを持つことができ、大きな成果があったと捉えている。

さらに、中学校入学後に期待することとして、新しい友達や部活動への期待度が高い。特に部活動については、部活動加入率が前年度より1年生で0.7ポイント、全体で3.9ポイント上昇し、部活動見学の効果を確認することができた。

○各部会の1年間の取り組みより

- ①「小中情報交換」によるきめ細やかな指導及び「あいさつ運動」による、児童生徒のより良い関係作りにより、平成25年度は不登校現在0名（平成26年1月現在）という結果となっており、中1ギャップの解消に繋がっていると考えられる。
- ②「学習規律」「み・そ・あ・じ」の徹底により、児童生徒、教師が共に意識した取り組みをおこなっている状況が明らかとなった。
- ③小学生は、中学校の行事見学をとおして、中学生の活動やその行事に取り組む姿勢から中学校生活を知ると同時に、希望や目標を持つことができた。
- ④総合部会では、中学校の進路指導に向けた系統表を作成し、小・中学校の学習で、見通しをもった指導体制をつくることができた。
- ⑤「ノート指導の工夫」に取り組んだことで、児童生徒が自分の学びを振り返ることやまとめ方を工夫することができた。また、自分の考えと友達の考えと比較することで、思考を整理し、主体的に学ぶ児童生徒の姿がみられた。
- ⑥月1回の校長・教頭・コーディネーター会議、各部長・コーディネーター会議を実施し、報告・連絡・相談を密にできた。

2 課題

児童生徒アンケート結果より、平成24年度と比較すると大幅に減少したとはいえ、まだ4割近くの児童が中学校生活に不安を抱えており、今後とも実態を踏まえた取り組みが必要になってくる。さらに、不安を感じていることが、中学校生活全般から学習、進路など個人に関わることに変化してきていることから、中学校入学後におけるきめ細かな指導が一層求められている。

○各部会の1年間の取り組みより

- ①交流行事は、より効果を高めるためにも、ねらい等を伝える事前指導や意識を高める工夫がもっと必要である。
- ②「時間のけじめ」「発表の仕方」「授業中の聞く態度」の3つが中学校の課題となっており、今後も検証を進めながら指導の深化を図っていく必要がある。
- ③3校の担当で役割についてしっかり確認することが計画を実施する上でとても重要である。そのため、事前の話し合いの時間を十分に確保することが今後も課題である。
- ④小中の教師が互いの授業を参観し合い、お互いに歩み寄ることで、教材研究や授業改善につなげ、指導力の向上へつなげたい。
- ⑤小中の学習内容の系統性を踏まえた授業展開を行う。（特に国語、算数・数学）
- ⑥小中一貫教育に対する保護者や地域へのアピールについては、啓蒙活動をさらに行う必要がある。

3 改善策

○事前の話し合いの時間確保について

- ①打ち合わせ日を3校の年間計画に位置付けする。
- ②学校間の打ち合わせ、会議等の時間確保のため、WEB会議システムを全小中学校に導入する。
- ③合同行事の工夫